

| | | | |
|--|-----------------|------|--------------------|
| 東京学芸大学附属世田谷中学校公開授業研究会 公開授業 第3学年 技術・家庭(家庭分野) 学習指導案 | | 授業者 | 関野 かなえ |
| | | 授業学級 | 3年C組(男子17名, 女子17名) |
| 授業テーマ | 食の選択 — 食品の安全と情報 | | |

1. 本時の目標

自らの健康や食、安全の状況を適切に評価するとともに、必要な情報を収集し、健康で安全な生活や健全な食生活を実現するために何が必要かを考え、適切に意思決定し、行動するために必要な力を身に付ける。

2. 本時の位置づけ

本時は学習指導要領「B 衣食住の生活」(3)ア(ア)にあたり、『食に関する指導の手引き 第二次改訂版』の「学校における食育の推進 1 食に関する指導の目標」に基づいて内容を構成した。学習指導要領「C 消費生活・環境」とも関連を図っている。

第2学年で「食事の役割と中学生の栄養の特徴」、「中学生に必要な栄養を満たす食事」について履修し、第3学年において、「日常食の調理と地域の食文化」を取り上げた。

本題材は、第一次第1時において生鮮食品・加工食品の特徴、第2時において食品選択のポイントについてジグソー法を用いた学習、第二次第1～3時(本提案)「食の選択 — 食品の安全と情報」で構成している。

3. 本時の概要

(1) 「食」の適切な意思決定に向けて

世の中には様々な食の情報が溢れており、食に関する情報も日々更新されている。その中には具体的な効果や科学的な根拠が示されていないものもある。

健康な体を築くためには、食事が欠かせない。また、何を選び取るか、日々の意思決定が健康を大きく左右する。そこで、「健康・安全な食生活を営むために、食に関する情報を正しく読み取って判断し、適切に選択・活用しようとする姿」を本題材を通して目指す生徒の姿とし、3時間扱いとして授業を計画した。

第二次第1時では、食に関する資料をもとに、

書籍のタイトルや帯、内容から相反する事柄や疑問を見出し、「問題解決、探究における情報活用の入口」として、まず、生徒自ら食に関する問いをたてる。

第二次第2時においては、前回立てた問いをもとに、『対話型論証モデル』(松下, 2021)を用いて問いに対する「主張」や「事実・データ」「反駁」等について情報収集し、「結論」を導く。第3時では、その内容を共有し、最終的に本題材の問いである「健康で安全な食生活を実現するために、食の情報をどのように収集し、判断・選択していくべきか」について考える。様々な情報の中から「情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり」する中で、情報を適切に活用し、自らの意思決定にどのように生かしていくか考える。

(2) 情報活用能力との関連

-1 情報活用能力をどうとらえるか

「よりよく生きること」を目指す家庭分野のねらいを実現する上で、情報活用能力を育成することは不可欠であるといえる。なぜならば、私たちの生活は日々の食事で何を選び取るか等、意思決定の連続だからである。その意思決定の際に重要になるのが情報である。私たちの口に入るものが安全であるのか、健康に悪影響を与えないものなのか、適切に情報を判断する力がないと最悪の場合、死に至ることもある。

私たちの健康・安全を支えるものとして、情報活用能力の育成が求められると考える。

-2 体系表に照らしてみると

本実践で育てる情報活用能力は、主に次の2つに関連すると考える。

B1 ①必要な情報を収集、整理、分析、表現する力

C1 ①多角的に情報を検討しようとする態度

4. 本時の展開

【第1時】

| 主な学習活動と予想される生徒の反応 | 指導上の留意点 |
|---|---|
| 〈1. 導入：18分〉 ・ 生徒の考える「健康」の意味やアンケート結果を示す。 ・ 本時の学習内容を確認する。 | ・ 日々の意思決定が私たちの健康に大きく影響することや、食についての正しい情報をもとに、情報を適切に選択することの重要性を感じさせる。 |
| 〈2. 展開：27分〉 ・ 自ら食に関する問いを挙げ、班で共有し、一つに絞る。 | ・ 疑問文で問いをたてる等、問いのたて方を確認した上で、考えを付箋に挙げ、意見交換させる。 |
| 〈3. まとめ：5分〉 ・ 班でたてた問いを紹介し合う。 | ・ 班の問いを全体で共有し、「閉じた問い」ではなく、「開いた問い」になっていることを確認する。 |

【第2時】

班でたてた問いを用いて、『論証モデル』の作成を行う。作成している中で感じた気づきに着目させる。

【第3時】

| 主な学習活動と予想される生徒の反応 | 指導上の留意点 |
|---|--|
| 〈1. 導入：3分〉 ・ 本時の学習内容を確認する。 ・ 本時の問いを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">健康で安全な食生活を実現するために、食の情報をどのように収集し、判断・選択していくべきか</div> | ・ 各班で作成した『論証モデル』の紹介を通して、本時の問いについて考えることを伝える。 |
| 〈2. 展開①：15分〉 ・ 前時に班で作成した『論証モデル』を紹介する。 ー 『論証モデル』の紹介：2分 ー 『論証モデル』作成中に考えたこと等：1分 ー 質疑応答 | ・ 4回中、1回発表し、残りの3回は他の班の発表を聞くことで様々な食の情報に触れさせる。 ・ 相反する情報や真偽の判断が難しい情報に触れることで、食に関する情報を適切に選択する上で共通項等を見出させる。 |
| 〈2. 展開②：25分〉 ・ 各班の発表を踏まえて、本時の問いについて考える。 ・ 食の安全、食の情報に関するできごとや安全を保つしくみについて知る。 | ・ 発表を受け、結論に至るまでの情報は十分であったか等、情報との向き合い方について生徒同士で意見を出し合わせ、適切に情報を収集し、判断することの必要性を確認させる。 ・ 食の安全に関する資料等を示して、食の安全、情報について確認させる。 |
| 〈3. まとめ：7分〉 ・ 本時の問いについて、班で話し合ったことを発表する。 ・ 「健康で安全な食生活を実現するために、食の情報をどのように収集し、判断・選択していくべきか」について、自分の考えをワークシートにまとめる。 | ・ 班での発表を通して、全体で考えを共有し、班で考えたことや教科書等での既習事項を踏まえて本時の問いに対する自分の答えをワークシートにまとめさせる。 ・ 現時点で最良だといえる情報でも、情報は常に更新されることから、自身の現状等に応じて最適解を考え続けることの重要性に気づかせたい。 |

【引用文献】

- ・ 文部科学省, 2019 「教育の情報化に関する手引き」
- ・ 松下佳代, 2021 「対話型論証による学びのデザイン 学校で身につけてほしいたった一つのこと」 勁草書房